

インドネシア

小規模灌漑管理事業



西ヌサテンガラ州の灌漑地域

[借 款 概 要]

承諾額/実行額	1,896百万円 / 1,893百万円
借 款 契 約 調 印	1989年12月
借 款 契 約 条 件	金利2.5%、返済30年（据置10年）
貸付完了	1996年12月

[事 業 概 要]

インドネシア東部3州（南スラウェシ、西ヌサテンガラ、東ヌサテンガラ）において、小規模灌漑開発の手法調査・研究及び建設を行うことにより、二次作物（大豆、落花生等）乾期作の導入による作付の多様化を図り、農業生産性の向上に寄与するもの。

[評 価 結 果]

本事業は米国国際開発庁（USAID）との協調融資であり、計19,530haの地表水灌漑と5,240haの地下水灌漑が開発されたが、このうち円借款は、西ヌサテンガラ州における小規模ダム建設による地表水灌漑施設（2,500ha）、東ヌサテンガラ州での248カ所の浅井戸建設による地下水灌漑施設（600ha）等を対象とした。

事業完成4年後の1998年時点で、両地域ともほぼ計画通りの作付面積を達成し、作付率についても西ヌサテンガラでは計画の二毛作を上回る240%、東ヌサテンガラでは、事業実施前46%から101%へと改善している。農作物の収量増加により、灌漑地域の野菜市場では、事業実施前は週1回であった開催日が連日となる等、地域経済の活性化に寄与している。

なお、本事業では、営農指導の他、計画段階から農民の参加を図り農民グループの育成を支援するなど、参加型アプローチを採用したことが特筆され、現在も概ね順調に灌漑営農が行われている。